

データシート

エンドポイント・セキュリティ・ エージェント・ソフトウェア



エンドポイント・セキュリティ・エージェントのソフトウェアの最新バージョンは33で、Serverのバージョン5.1以降に対応しています。表1に、Windows、macOS、Linuxのオペレーティング・システムのサポートされているエージェントを示します。特に表記がない限り、記載されているバージョンのすべてのエディションがサポートされています。

表1: エンドポイント・エージェントのサポート機能

エージェント: V33							
Windows	監査	リアルタイムのIOC	ExploitGuard	マルウェアからの保護	MalwareGuard	IAモジュール	
Windows 7	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Windows 8	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Windows 10	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Server 2008R2	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Server 2012R2	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Server 2016	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Server 2019	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
macOS	監査	リアルタイムのIOC	ExploitGuard	マルウェアからの保護	MalwareGuard	IAモジュール	
OS 10.9~10.11	✓	✓	×	×	×	✓	✓
OS 10.12~10.15	✓	✓	×	✓	×	✓	✓
OS 11	✓	✓	×	✓	×	✓	✓
Linux	監査	リアルタイムのIOC	ExploitGuard	マルウェアからの保護	MalwareGuard	IAモジュール	
RHEL 6.8~6.10、7.2~7.7、8~8.2	✓	✓	×	×	×	✓	✓
CentOS 6.8~6.10、7.2~7.7、8	✓	✓	×	×	×	✓	✓
Ubuntu 14.04、16.04、18.0.4、20.04、20.10	✓	✓	×	×	×	✓	✓
SUSE 11.3、11.4	✓	×	×	×	×	✓	✓
SUSE 12.2、12.3、12.4、12.5 15	✓	✓	×	×	×	✓	✓
Open SUSE 15.1、15.2	✓	✓	×	×	×	✓	✓
Amazon AMI 2018.3、AMI2	✓	✓	×	×	×	✓	✓
Oracle Linux 6.10、7.6、8	✓	✓	×	×	×	✓	✓

✓: 現在のバージョンで利用可能

×: 利用不可

FireEyeエンドポイント・セキュリティ・エージェントの機能サポートに関する注意事項

- Windows Embedded EnterpriseおよびIoT Enterpriseのバージョンは、Windowsデスクトップのバージョンの同等バージョンでサポートされています。
- Windows Server 2016が動作しているホスト・エンドポイントでは、メモリ関連の監査はサポートされません。
- エージェント33.22は、macOS 11でのネットワークの封じ込め、リアルタイム検知エンジン、リアルタイム検知エンジンのImageloadイベントをサポートしていません。
- 一部のエンドポイント・セキュリティ機能には、特定のバージョンのFireEyeエンドポイント・セキュリティ・エージェントのソフトウェアが必要です。詳細は、FireEyeエンドポイント・セキュリティのサーバー・ユーザー・ガイドとFireEyeエンドポイント・セキュリティのエージェント管理ガイドをご覧ください。

エンドポイント・セキュリティのシステム要件

FireEyeエンドポイント・セキュリティ・エージェントは、第4世代 (Haswell) Intel、Apple M1、または同等のプロセッサでの使用が推奨されます。このエージェントは、利用可能なストレージが1GB以上の任意の内蔵ハードドライブにインストールできます。エンタープライズ全体の徹底的な検索など、負荷の大きいディスク/Oオペレーションを行う場合は、ソリッドステートのストレージ・システムの使用が推奨されます。このエージェントは、Windows、macOS、Linuxのオペレーティング・システム上で動作します (表2~4)。

表2: Windowsオペレーティング・システムの要件

WINDOWSオペレーティング・システムのバージョン	最小システム・メモリ (RAM)
Windows 7およびWin 7 SP1 (32ビット、64ビット) Win 8 (32ビット、64ビット) Win 8.1 (32ビット、64ビット) Win 10 (32ビット、64ビット)	2 GB
Server 2008 R1、R2、R2 SP1、 R2 SP2 (32ビット、64ビット) Server 2012 (32ビット、64ビット) Server 2012 R2 (64ビット) Server 2016 (64ビット) Server 2019 (64ビット)	2 GB

表3: macOSの要件

MACOSのバージョン	最小システム・メモリ (RAM)
Mavericks 10.9 (64ビット) Yosemite 10.10 (64ビット) El Capitan 10.11 (64ビット) Sierra 10.12 (64ビット) High Sierra 10.13 (64ビット) Mojave 10.14 (64ビット) Catalina 10.15 (64ビット) Big Sur 11 (64ビット)	2GB

表4: Linuxオペレーティング・システムの要件

LINUXオペレーティング・システムのバージョン	最小システム・メモリ (RAM)
RHEL 6.8~6.10 (64ビット) RHEL 7.1~7.7 (64ビット) RHEL 8~8.2 (64ビット) CentOS 6.9~6.10 (64ビット) CentOS 7.1~7.7 (64ビット) CentOS 8 (64ビット) SUSE 11.3、11.4、12.2~12.515 Open SUSE 15.1、15.2 Ubuntu 12.04、14.04、16.04、18.04、19.04、 20.04、20.10 Amazon Linux AMI 2018.3、AM2 Oracle Linux 6.10、7.6、8 (1および2)	2GB

FireEyeの詳細については、www.FireEye.jpをご覧ください。

ファイア・アイ株式会社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-22
テラススクエア8階 | 03-4577-4401 |
japan@FireEye.com

©2021 FireEye, Inc. All rights reserved. FireEyeはFireEye, Inc.の登録商標です。その他のブランド名、製品またはサービス名はそれぞれその所有者の商標またはサービスマークとして登録されている場合があります。
EP-EXT-DS-JA-JP-000086-08

FireEyeについて

FireEyeは、インテリジェンス主導型のセキュリティ企業です。顧客企業は、FireEyeの革新的セキュリティ技術、国家レベルの脅威インテリジェンス、世界的に著名なMandiant®コンサルティングの知見が統合された単一プラットフォームを、自社のセキュリティ対策の一部としてシームレスに組み込むことができます。このアプローチにより、FireEyeは準備、防御、インシデントレスポンスといった、組織がサイバー攻撃対策をする上での課題となっていた複雑性や負担を解消します。

